



Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第7号

目次

- 第3回学長選考会議が開催される
- 三重県知事との懇談会が開催される
- 和歌山大学との連携に向けて
- 中期目標・中期計画素案が評議会で承認される

- 人文学部で第2回外部評価が実施される
- 海外招聘アドバイザー・プログラムが実施される
- 三重大学に2000年前から人間が生活していた！
～三重大学校内遺跡・鬼が塩屋遺跡の発掘調査から～

お知らせ

- ・国際交流室から
- ・お詫び

第3回学長選考会議が開催される

9月2日に第3回学長選考会議が開催されました。学長選考会議は、第1次学長選考候補者4名について面接を行い、4名全員を第2次学長選考候補者として公示することを決定しました。また、右記のような日程で、公開討論会、意向投票を実施することなどについて確認しました。4名の候補者の縦覧用書類（履歴書、研究業績、教育活動実績、社会活動実績、管理運営実績、基本方針）は、本学ホームページ「学長選考に関するお知らせ」の中の「公示について」(<http://www.mie-u.ac.jp/gakunai/gakutyousen/jyuran/index.html>)に掲載されておりますので、ご覧下さい。

年月日	事項	備考
平成15年 10月2日 13:30～15:30 講堂大ホール	公開討論会	学長選考会議は、書類審査、公開討論会、意向投票の結果等を踏まえて、総合的に学長候補者を決定します。
平成15年 10月8日 11:00～14:00 各投票所	意向投票 意向投票結果公示	
平成15年 10月14日	第2次選考結果公示	

学内教職員におかれましては、公開討論会、意向投票（教員のみ）に積極的に参加されるよう、お願い致します。

三重県知事との懇談会が開催される



9月8日に矢谷隆一・本学学長と野呂昭彦・三重県知事との懇談会が三重県庁で開催されました。懇談会では、国立大学の法人化、本学と三重県の連携・協力などについて、意見の交換が行われました。本学と三重県とは、みえメディカルバレー事業、地域貢献特別支援事業、防災事業などにおける連携、本学から三重県の各種委員会への委員派遣、三重県から本学への職員の派遣などの他、共同研究・受託研究による連携もきわめて強く、知事からは、これまでの協力関係の継続に加え、本学に対するより強い連携への期待が寄せられました。

和歌山大学との連携に向けて

9月5日に本学と和歌山大学との連携協議準備会が開かれました。今回の本準備会に続いて組織される「連携協議会」（仮称）の組織、手順、内容などが議題となりました。研究連携、教育連携、地域連携などの部会（WG）を設け、相互の理解と交流のもとで、できる課題から始めていくことを確認しました。例えば、入試会場の相互提供、教職員交流、学生によるクラブ大会の共同開催などが話題となりました。

中期目標・中期計画素案が評議会で承認される

文部科学省に提出する中期目標・中期計画の素案が9月17日の評議会で承認されました。中期目標・中期計画は大学法人化後6年間の基本的な目標と計画を記載したものであり、三重大学の将来を大きく左右する重要なものです。近々国に設置される国立大学法人評価委員会が各大学から提出された中期目標・中期計画を検討し、何らかの修正を指示する可能性があります。最終的に中期目標・中期計画が確定するのは来春の予定です。

人文学部で第2回外部評価が実施される

人文学部（学部長：渡邊悌爾教授）では、9月12日午前10時30分より午後3時30分まで、大会議室において、第2回外部評価委員会が開催されました。今回のテーマは、「人文学部の研究と社会的貢献」であり、依頼した5名の外部評価委員（下記）の方々には事前に送付した資料に予め目を通して頂き、当日の学部長、両学科長の説明事項を中心に、それぞれの専門的な立場から率直な指摘や課題提起をして頂きました。今後、「外部評価報告書」として取りまとめられる予定です。なお、外部評価委員（敬称略）は、次の方々です：吉田哲・三重県副知事、竹森正孝・岐阜大学地域科学部長、石原義剛・海の博物館館長（再）、伊藤康明・津商業高等学校長、美濃部義昭・日本トランスシティ（株）取締役経営企画部長

海外招聘アドバイザー・プログラムが実施される



K.C.Ting教授

一致のコンセンサスで決まること、教官が週の20%の時間内で企業に雇用される事が公的に可能で、企業から給料を受け取る事も可能であることなど、興味深い話がありました。知的財産権に基づく産学協同推進のあり方について有益で新鮮な情報を得ることができました。

2004年度からの国立大学の独立行政法人化を睨み、「大学改組を米国に学ぶ」という企画でオハイオ州立大学のK.C.Ting教授に、表に示す一連の講演を頂きました。(世話人：伊藤信孝・生物資源学部教授)

Ting教授は、「生物のためのロボット工学」の著者の1人であり、火星への宇宙船内で食料を生産し乗組員を支援する研究を米航空宇宙局(NASA)からのサポートで進めています。講演では米国における大学の雇用、能力評価、雇用後6年で迎える安定雇用(tenure)への審査・評価システムなどの説明に加え、学長をはじめとする要職ポストは世界的に広く公募し、その殆どが選挙でなく人材探索委員会(Search committee)委員による全員

Invited Advisory Program

日・場所	講演内容
9/8 (月) 生物資源学部	農業ロボット生き残りの展望
9/9 (火) 工学部	宇宙における人命支援のための生物工学的システム
9/11 (木) 事務局	学術的活動、研究、教官雇用、能力評価及び昇任(格)と安定雇用のプロセス
9/16 (火) 生物資源学部	21世紀における農業・生物・食科学の挑戦と機会および学術的専門
9/18 (木) 地域共同 研究センター	大学の技術と国際的遵守事項

三重大学に2000年前から人間が生活していた！
～三重大学校内遺跡・鬼が塩屋遺跡の発掘調査から～

本学の地域共同研究センターの北で始まった建設工事現場から弥生土器が出土しました。人文学部の山中章教授と考古学研究室のゼミ生らによって、急遽7月初めから発掘調査が行われました。炎天下における1ヶ月の調査の結果、①発見された場所が、今から約2000～1800年前には志登茂川の河口付近の湿地帯だったということ、②大小30以上の土錘と呼ばれる網のおもり(写真)が発見され、付近に住む人々が河口付近に集まる小魚を捕っていたのか、あるいは海辺へ漁に行った帰りに落としていったと考えられること、③約1800年前の壺類、食物などを盛りつける高坏、煮炊きに使う甕などが見つかり、近くに漁村があったと考えられること、④地震の発生を示す液状化現象のあとが地面に刻まれていたこと、など次々と新事実が判明しました。山中教授によれば、その他にも、遺物の中には多くの情報が隠されており、今後も逐次公表していきたいとのこと。



出土した弥生土器と土錘

お知らせ

国際交流室から—四日市市で国際シンポジウムを開催

国際環境シンポジウム「四日市公害問題の再評価と国際環境協力～四日市からアジアへ～」が、10/17(金)13:00-16:30に三重大学講堂小ホールで開催されます。第1部では、「公害問題の原点を探る」と題し、「四日市公害から環境快適都市へ—四日市学の提案」(朴恵淑・本学人文学部教授)、「公害問題の環境哲学的考察」(宋錫球・韓国東国大学校前総長、「水俣病から水俣学へ」(原田正純・熊本学園大学教授)の報告が行われます。第2部では、上野達彦・本学副学長をコーディネータとし、「四日市公害の教訓と国際環境協力」について、崔雲植(韓国梨花女子大学校教科教育研究所長)、原田正純、吉田克己(本学名誉教授)、長谷川寛(三重県環境部長)の方々によるパネルディスカッションが行われます。

国際交流室から—
「3大学国際ジョイント・セミナー&シンポ」10周年記念大会を開催

1994年に三重大学がチェンマイ大学と江蘇大学に呼びかけて始まった標記の国際交流事業の第10回記念大会が、10/18～21に三翠ホールで開催されます。本学と一般協定を締結しているアジア圏の16大学から約110名(学生75名、教職員35名)が参加し、約80件の研究発表が行われる他、体験授業、ワークショップ、伝統民族アトラクションなど、表のように多彩な行事が予定されています。ご来場を大歓迎致します。

期日	3大学セミナーの主な行事
10/18 (土)	開会式、記念講演、セミナー/シンポジウムⅠ、ワークショップⅠ、表敬訪問、歓迎パーティ
10/19 (日)	セミナー/シンポジウムⅡ、ワークショップⅡ、フレンドシップ・ブザ、アトラクション(文化祭)
10/20 (月)	セミナー/シンポジウムⅢ、実地見学、ワークショップⅢ、国際交流促進協議会議
10/21 (火)	セミナー/シンポジウムⅣ、体験授業、ワークショップⅣ、(成果発表)、閉会式、さよならパーティ

お詫びと訂正

前号(6号)の「レイモンドホールが登録有形文化財に指定される」におきまして、「平成14年3月18日付けで国の登録文化財として登録されました。」と記載されておりますが、「平成15年」の誤りでした。謹んでお詫び申し上げます。

投稿のお願い

各種事項(法人化問題、地域連携、国際交流、学内事業等)に関するフレッシュなニュースの提供をお待ちしております。畑中重光(hatanaka@archmie-u.ac.jp)または井上真理子(mariko-i@ab.mie-u.ac.jp)まで。場合によっては、取材に向きます。(フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページでご覧いただけます。)